

パブリックコメント（案）

中海圏域定住自立圏共生ビジョン

平成 22 年 3 月

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

目次

はじめに

第1	定住自立圏共生ビジョン策定の目的	P3
第2	定住自立圏の名称	P3
第3	定住自立圏を構成する市・町の名称	P3
第4	定住自立圏の特徴と将来像	P4
1	構成市町の特徴	P4
(1)	米子市	P4
(2)	境港市	P4
(3)	松江市	P4
(4)	安来市	P4
(5)	東出雲町	P4
2	中海圏域全体の特徴	P5
(1)	自然	P5
(2)	歴史	P5
(3)	人口	P6
(4)	生活	P6
(5)	産業	P7
(6)	交通・情報	P10
3	中海圏域発展の方向性と将来像	P11
(1)	圏域発展を索引する三つの方向性	P12
(2)	圏域発展を支えるひとつの基盤	P14
(3)	中海圏域の将来像	P15
第5	定住自立圏共生ビジョンの期間	P17
第6	定住自立圏形成協定に基づき推進する分野及び施策	P17
第7	定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組	P18
	定住自立圏構想実現に向けた施策の体系図	
(1)	生活機能の強化に係る政策分野	P19
①	医療	P19
ア	保健医療を担う病院への支援	P19
②	福祉	P20
ア	圏域内の保育所情報の提供	P20
イ	障がい者雇用・就労支援の促進	P21
③	教育	P22
ア	体育・文化施設利用による住民交流の促進	P22
イ	図書館利用者登録の拡充	P23
ウ	学校給食に圏域の特産食材の使用	P24

④ 産業振興	P25
ア 圏域の観光振興	P25
イ 「中海産業技術展」への支援	P27
ウ 環日本海定期貨客船の安定運航に向けた支援	P28
⑤ その他	P29
ア 下水道のインフラ整備（１）	P29
下水道のインフラ整備（２）	P30
イ 災害時の相互応援	P31
ウ 大学等との連携の推進	P32
エ 環境保全の推進	P34
オ 各種廃棄物の効率的な処理等の検討	P36
(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	P37
① 地域公共交通	P37
ア 公共交通の利便性向上に向けた取組	P37
イ コミュニティバスの運行	P38
② 道路の交通インフラ整備	P41
ア 中海の湖岸を周遊できる道路の検討	P41
イ 中海架橋建設に向けた連携	P42
③ その他	P43
ア 「中海圏域振興ビジョン」（仮称）の策定	P43
イ 圏域情報の共有化	P44
(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	P45
① 人材育成	P45
ア 職員派遣及び合同職員研修	P45
イ 外部から専門的な人材を共同で招へい	P46

第1 定住自立圏共生ビジョン策定の目的

松江市・米子市とその周辺にある境港市・安来市・東出雲町は、定住自立圏構想推進要綱の中心市要件を満たす松江市・米子市が共同中心市宣言を行い、定住自立圏形成協定を締結し、定住自立圏を形成した。

本ビジョンは、この4市1町による定住自立圏が、当該圏域の将来像や定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組事項を記載し、公表することを目的としている。

第2 定住自立圏の名称

松江市・米子市と中海圏域の定住自立圏形成に関する協定を締結した境港市、安来市及び東出雲町の4市1町が構成する定住自立圏の名称は、中海圏域の定住自立圏（以下「定住自立圏」という。）とする。

第3 定住自立圏を構成する市・町の名称

定住自立圏は、定住自立圏形成協定を締結した松江市、米子市、境港市、安来市、東出雲町の4市1町で構成する。

中海圏域の構成市町



第4 定住自立圏の特徴と将来像

1. 構成市町の特徴

(1) 米子市 ～自然と人が共生するにぎわいのまち～

米子市は、白砂青松の弓ヶ浜半島、中国地方随一の秀峰大山の四季折々の雄姿と山麓から湧出る名水に恵まれた自然豊かな土地であるとともに、明治時代からつづく鉄道網の拠点であり、現在でも米子自動車道、米子空港を擁する山陰の交通の要衝です。また、古くから山陰の商都と称される商業の町で、新しいものを積極的に受け入れる進取の気質にあふれ、交流により発展してきた、開放的で活気あふれる都市です。

(2) 境港市 ～さかなと鬼太郎のまち～

境港市は、カニの水揚げ日本一の「境漁港」のほか、国際定期コンテナ航路に加え、韓国、ロシアを結ぶ国際定期貨客船航路が開設された「重要港湾・^{きかいこう}境港」、韓国ソウルへの国際定期便が就航する「米子空港」といった海と空の港を有することから、中海圏域をはじめ西日本と海外を結ぶ交流拠点となっています。また、近年では、妖怪のブロンズ像が立ち並ぶ「水木しげるロード」が人気を集め、中海圏域屈指の観光地になっています。

(3) 松江市 ～水と緑、歴史と教育を大切にするまち～

松江市は、中海とともに宍道湖、日本海に囲まれた水の都であり、松江城を中心とする城下町の風情は、文豪小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の『知られぬ日本の面影』により、広く世界に紹介されています。また、京都・奈良と並ぶ「国際文化観光都市」でもあります。今なお、松江藩7代藩主松平不昧公から受け継がれる茶の湯の文化が市民生活に息づく、歴史と文化の薫り高い都市です。

(4) 安来市 ～安来節と名画と名園のまち～

安来市は、古くから良質の砂鉄が採れ、製鉄が盛んに行われていました。現在も、その流れをくむ日立金属(株)安来工場があり、協力企業や取引先企業など金属関連製造業の集積があります。また、市の南部は中国山地に連なる豊かな緑に覆われ、市域を流れる飯梨川・伯太川両河川は優れた農地を育んでいます。さらに、安来節をはじめ、個性豊かで優れた民芸・美術・伝統技術・伝統芸能・歴史的建造物など、多彩な文化を有しています。

(5) 東出雲町 ～小さくてもキラリと光るまち～

『古事記』や『日本書紀』にも登場する舞台として、古い歴史や文化をもつまちで、近年では、宅地開発が進み、圏域内では唯一、人口が増加傾向にあります。町内には、農業機械生産高で日本第4位の三菱農機(株)の本社があり、企業城下町として、製造業の一定の集積があり、「ものづくりのまち」としての性格も持っています。

2. 中海圏域全体の特徴

(1) 自然・環境

中海圏域には、中海・宍道湖や日本海、河川あるいは森林など豊かな自然があります。

このうち、中海圏域の中央にある中海は、国際的に重要な湿地として平成17年にラムサール条約に登録されており、住民の憩いの場や観光資源などとして親しまれる圏域の貴重な財産となっています。

しかしながら、周辺流域の社会経済活動の発展や生活様式の変化等に伴い水質が悪化してきたことから、平成元年に湖沼水質保全特別措置法に基づく指定湖沼とされ、これまで、20年にわたる水質改善の取り組みが行われてきました。

また、圏域の北部にある「島根半島」は、大山隠岐国立公園の一部をなし、その中には神話にも登場する「加賀の潜戸」があります。さらに、安来市の清水寺を中心とする地区や鷺の湯温泉地区、富田城跡を中心とする月山地区からなる「清水月山」、松江市の嵩山地区や枕木山地区、朝日山地区からなる「宍道湖北山（東部地区）」という2つの県立自然公園もあります。

(2) 交流の歴史

中海圏域には、日本の国を産んだとされる夫婦神・伊邪那岐命（イザナギノミコト）と伊邪那美命（イザナミノミコト）にまつわる日本神話の舞台となる「黄泉比良坂（ヨモツヒラサカ）」（東出雲町）が残っています。

また、奈良時代に編さんされた『出雲国風土記』の冒頭には、中海圏域が舞台となる「国引き神話」が描かれています。朝鮮半島や北陸地方の一部を引っばってきたものが今の島根半島にあたるという壮大な物語です。この物語は、様々な文化や技術、あるいは人との交流があったことも表現しているといわれています。

このような交流の証しは、日本海沿岸部にも数多く残っています。「妻木晩田遺跡」（米子市）をはじめとする多くの遺跡からは、弥生時代の集落跡や四隅突出型墳丘墓などが発見されているほか、淀江平野にはラグーン（潟）があり、淀江潟に面した「稲吉角田遺跡」（米子市）からは、船舶、望楼・祠、倉庫群など潟沿岸の景観を描いたとみられる土器が発見されており、海上交易の要衝地として発展していたとみられます。また、「上淀廃寺跡」（米子市）からは、奈良法隆寺の壁画と並ぶ日本最古級の彩色仏教壁画も出土しています。

このように中海圏域は、『古事記』、『日本書紀』などで語られる日本の国づくりにつながる舞台であり、日本神話の時代から続く北東アジアとの交流の歴史があります。

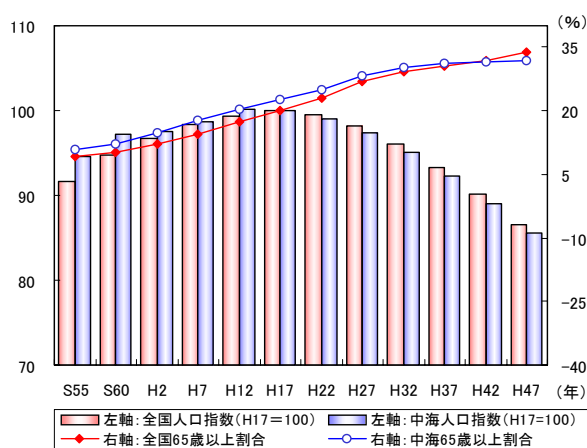
(3) 人口

中海圏域の人口は約 44 万人（「平成 17 年国勢調査」）で、山陰両県の約 3 割を占めています。また、本州の日本海沿岸の都市の中では、新潟市（約 79 万人）、金沢市（約 45 万人）に次ぐ人口の集積地です。

これまで、中海圏域の人口は総じて増加傾向にありましたが、平成 12 年をピークに減少に転じ、平成 17 年の約 44 万人から 30 年後の平成 47 年には、約 38 万人まで減少すると推計されています。

また、圏域全体の 65 歳以上人口の割合も、平成 17 年の 22.6%から 30 年後の平成 47 年には 31.7%となり、高齢化が急速に進むと推計されています。

人口と高齢者人口割合の推移



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」

(4) 生活

① 生活圏

中海圏域周辺の通勤・通学や買物の状況を見ると、高等教育機関や高等学校、百貨店や大型ショッピングセンターなどが集積している米子市、松江市への流れが大きくなっており、圏域の市町はもとより周辺市町村からの人の流れも集中しています。このように、中海圏域では、日常生活の場での人の移動・交流が活発になっており、県境や市町村界を越えた広域の生活圏が形成されています。

しかしながら、県境や市町村界による“壁”を感じる場面があることも事実です。今後は、広域化した生活圏にあわせた社会基盤や制度を一層充実していく必要があります。

② 医療機関

中海圏域の人口 10 万人あたりの病院病床数は 1688.8 床、医師数は 338.1 人で、鳥取県や島根県あるいは全国と比べて高い水準にあります。このことから、圏域の医療体制は比較的充実しているといえます。

しかしながら、圏域内を市町別にみると、人口 10 万人あたりの病床数や医師数に大きな差があるため、圏域内での病院相互の連携やネットワークを強化する必要があります。

なお、圏域の救急医療体制をみると、鳥取大

病院病床数および医師数等（平成 20 年）

	人口 10 万人あたり 病院病床数	人口 10 万人あたり 医師数
米子市	1903.3	543.5
境港市	754.3	186.5
松江市	1817.4	270.1
安来市	1704.0	157.4
東出雲町	-	63.0
中海圏域	1688.8	338.1
鳥取県	1499.8	281.9
島根県	1585.0	257.5
全国	1260.4	224.4

※人口は「平成 17 年国勢調査」の数字を利用しました。

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」、厚生労働省「医療施設調査」、総務省「国勢調査」

学医学部付属病院と松江赤十字病院の2つの三次救急病院と、13の二次医療救急病院があります。

③ 福祉施設

中海圏域における社会福祉施設数は280施設あり、山陰両県の約3割を占め、圏域の人口同様に社会福祉施設の集積が進んでいます。また、人口10万人あたりの社会福祉施設数も63.5施設で、これも全国平均を上回っています。

しかしながら、中海圏域の施設利用率は平均100%を超えており、一部では待機者が発生するなどの課題があります。

④ 高等教育機関

中海圏域には、島根大学松江キャンパスや、島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）、鳥取大学医学部、米子と松江の工業高等専門学校、さらに多くの専門学校などがあり、山陰の他地域と比べ高等教育機関が集積し、若者が多く集まっています。しかしながら、卒業後に就職する人の3分の2程度は県外に出ており、魅力ある産業の育成と雇用促進が課題となっています。

また、大学や高専は、産学官連携を企画・推進していくための窓口を設置していますが、最近5年間の共同研究の実施件数をみると、全国的には増えているものの中海圏域では伸び悩んでいます。今後、地域産業の発展を図る上でも、産学官連携が活発になることが期待されます。

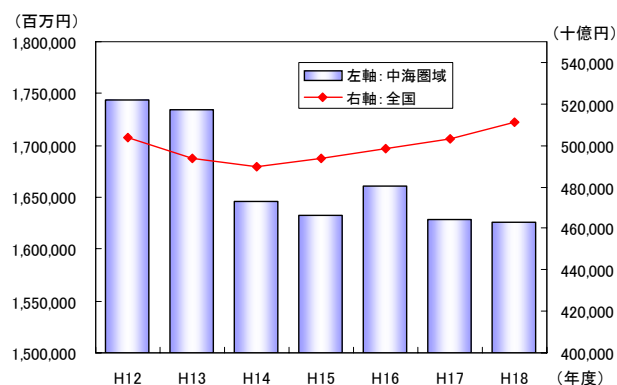
(5) 産業・観光

① 経済動向

中海圏域4市1町の市町村内総生産の合計は1兆6254億円（平成18年度）で、山陰両県の約35.8%を占めています。これは、中海圏域が山陰両県に占める人口の割合（32.8%）よりも高くなっており、多くの産業が集積しているといえます。

しかしながら、市町村内総生産は、平成12年度の1兆7432億円から平成18年度は1兆6254億円に減少し、事業所数についても、平成8年の25,125事業所から平成18年には22,447事業所と、この10年間で2,677事業所が減少しており、経済は停滞気味であるといえます。

市町村内総生産の推移（名目）



※全国は国内総生産（実数）を使用しています。

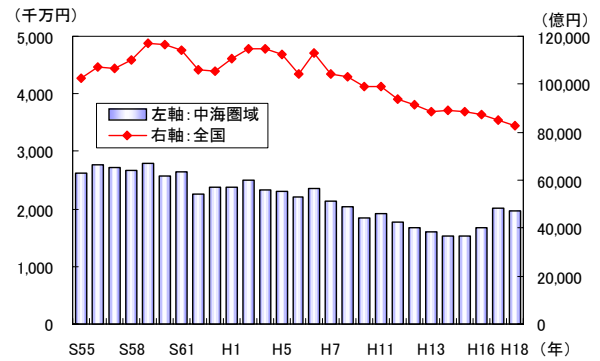
出典：鳥取県「平成18年度鳥取県市町村民経済計算」、
島根県「しまねの市町村民経済計算（平成18年）」

② 農林水産業

平成 18 年の中海圏域の農業産出額※は 2,024 億円で、長期的な推移をみると減少傾向にあります。また、水産業は、日本有数の水揚げを誇る境漁港を中心に非常に盛んですが、境漁港の漁獲水揚量の推移をみると、平成 5 年をピークに下降しています。

市町別にみると、米子市の白ねぎ、境港市の水産物、松江市のしじみ、安来市のタケノコ、東出雲町の干し柿など、4 市 1 町それぞれに特色ある農林水産品があります。

農業産出額の推移



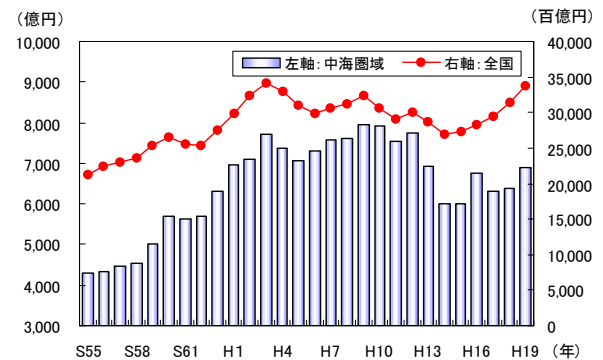
出典：農林水産省「生産農業所得統計」

③ 製造業

中海圏域の製造品出荷額は、平成 9 年の 7,943 億円をピークに減少に転じ、平成 14 年頃からはやや持ち直してきたものの、停滞気味に推移しています。圏域内には、安来市の鉄鋼業、東出雲町の一般機械器具製造業、米子市や境港市の食料品製造業など、一定の集積がみられます。

しかしながら、圏域全体でみると、製造品出荷額は停滞気味で、従業者 1 人あたりの粗付加価値額（労働生産性）は、全国平均より低くなっています。

製造品出荷額の推移



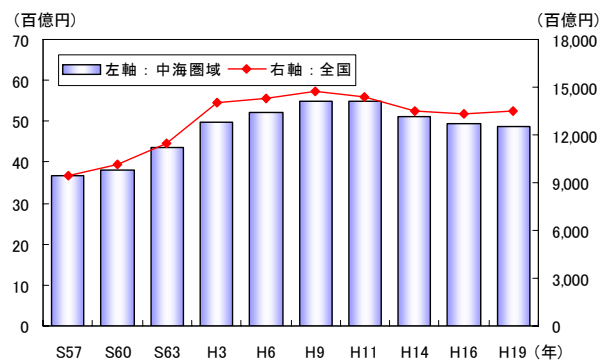
出典：経済産業省「工業統計調査」

④ 商業

小売業の年間商品販売額の推移をみると、平成 9 年をピークに減少し、近年は停滞傾向にあります。小売業売場面積は、大型店舗の進出等の影響により、拡大傾向にあります。

圏域内では、人口規模の大きい松江市や米子市の販売額が多くなっており、特に、米子市は小売吸引力※が 1.26 と最も大きく、中海圏域の商圈の中心的な都市といえます。

小売業年間商品販売額の推移



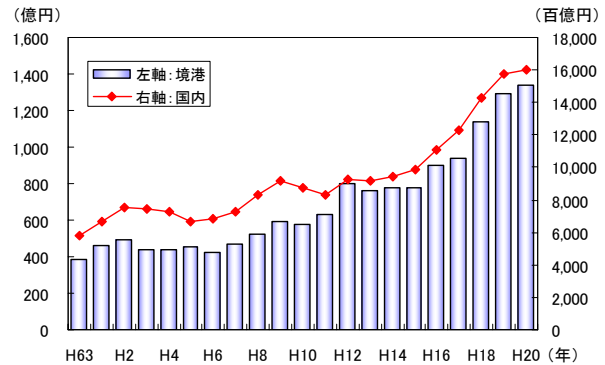
出典：経済産業省「商業統計」

⑤ 貿易

圏域内には重要港湾の境港^{さかいこう}があり、中国や韓国に向け国際定期コンテナ船が就航していることから外国貿易の拠点となっており、境港^{さかいこう}の貿易額は増加傾向にあります。

しかしながら、境港^{さかいこう}の外貿コンテナ貨物取扱量をみると、平成19年時点で日本海側の港湾で6位ではあるものの、1位の新潟港の約8分の1以下に留まっており、さらなる拡大に向けた取り組みが必要です。

境港の貿易額（輸出＋輸入）の推移



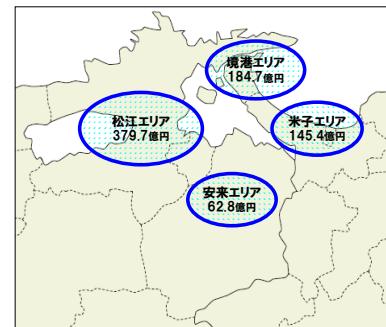
出典：財務省「貿易統計」

⑥ 観光

中海圏域には、江戸時代の城下町の面影や茶の文化が残る松江市や妖怪をモチーフにした「水木しげるロード」(境港市)、あるいは皆生温泉や玉造温泉などの観光地が多数あり、観光業は、圏域の主要な産業となっています。

中海圏域(松江エリア、境港エリア、米子エリア、安来エリア)の平成19年の観光消費額はおよそ773億円であり、松江エリアと境港エリアでの消費額が多いといえます。

中海圏域の観光消費額（平成19年）



※米子エリアは、淀江町の一部を除き、日吉津村を含んでいます。

出典：鳥取県「鳥取県観光入込動態調査結果」、
島根県「島根県観光動態調査結果」

※農業産出額

…農産物の生産量から中間生産物（種子、飼料など）を除いた最終生産物の総生産額のことです。
なお、以前は「農業粗生産額」との名称でしたが、平成13年より「農業産出額」に変更されました。

※小売吸引力

…地域が外部からどれだけの購買力を吸引しているかを示す指標です。山陰両県の平均を1とし、1を上回る場合は市町外からの買物客を引き付けていることを表します。

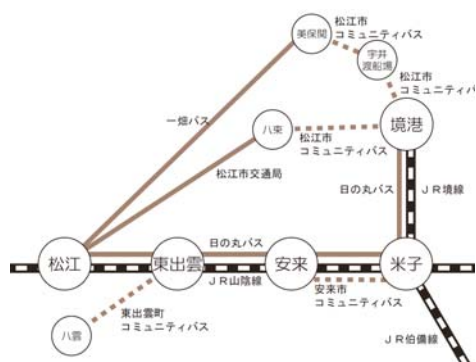
(6) 交通ネットワークおよび生活情報

① 交通ネットワーク

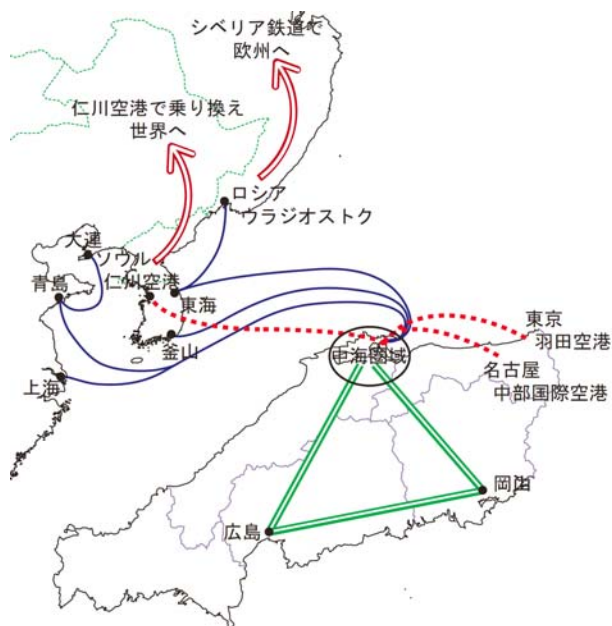
中海圏域内では、JRや路線バスなどの公共交通機関や国道、高速道路などの道路網の整備が進んでおり、おおむね都市間を結ぶネットワークが形成されています。また、国内の他都市とは、米子空港発着の空路やJR、高速道路などの陸路で結ばれています。一方、海外とは、^{きかいこう}境港からの国際定期コンテナ航路や国際定期貨客船航路、米子空港からの国際航空路線など、北東アジア地域につながるネットワークがあります。

しかしながら、県境を結ぶ道路や境港～松江間の公共交通機関など、一部の地域で整備が不十分な箇所があるほか、圏域内外を結ぶ高速道路や高速道路と重要港湾を結ぶ道路などを整備する必要があります。

中海圏域の公共交通体系
(市町界を越えるもの)



中海圏域外とのネットワーク



※上図は、あくまでイメージ図ですので、航路等が実際とは異なっている箇所があります。

② 生活情報

中海圏域では、暮らしに役立つ情報から経済、観光、行政の動きなど地域の様々な情報が提供されています。特にケーブルテレビは、各市町のきめ細かな情報を発信しており、貴重な情報源といえます。現在、安来市と東出雲町でケーブルテレビの整備が予定されており、この整備が完了すれば4市1町全てでケーブルテレビの受信が可能となります。

しかしながら、行政の広報や地元新聞、ケーブルテレビなど情報取得源が県や市町ごとに異なるため、圏域内の情報の共有化が進んでいないのが現状です。

3. 中海圏域発展の方向性と将来像

ここでは、中海圏域の特性を、内部環境における「強み」、「弱み」、外部環境における「機会」、「脅威」に分類・整理する中で浮かび上がってくる圏域発展の「方向性」と発展を支える「基盤」を明らかにし、そのうえで、この圏域の将来像を示していきます。

なお、将来像を検討するにあたり、以下の三つの視点が重要だと考えました。

- ① 「地域主権」や「道州制」などの議論や時代の要請の中で埋没することなく、この圏域の持続的な発展を実現するため、圏域の持つ強み、とりわけ他の都市、他の圏域に存在しない魅力、優位性を国内外に最大限活用する。
- ② 構成市町が自治体として行なっている固有の事務事業については、それぞれの特徴・個性を活かしながら実行することで圏域の活性化を図る。他方、圏域全体としての取り組みについては、それらと重複や交錯しないよう留意する。
- ③ 総花的な取り組みではなく、中海圏域が一体として取り組まなければ実現できないもの、一体として取り組むことに価値があるものを精選し、圏域内住民はもとより、団体・事業者等に判りやすく、かつ取り組みへの理解・共感が得られやすいものとする。

(1) 圏域発展を牽引する三つの方向性

圏域の持つ優位性を最大限活用し、他都市、他圏域にない魅力・個性を国内外に発信・際立たせるためには、圏域に暮らす住民、活動する事業者、団体等の理解・共感が得られるシンボリックな取り組みが必要です。

同時に将来に渡って持続することが可能で圏域を取り巻く環境変化に柔軟に対応するとともに、関連する産業や事業、住民参加などへの波及効果や裾野の広がりにつながる取り組みとしていくことが期待されています。

圏域発展を牽引する強力な推進力を持った「エンジン」に例えられる「三つの方向性」を示します。

- **北東アジアから世界へつながる西日本のゲートウェイの構築**
～なかうみで出会う～
- **中海をはじめとする豊かな自然と人が織りなす調和の実現**
～なかうみを守る～
- **自然・人材・技術の連携による世界に誇る中海ブランドの創出**
～なかうみで創る～

○ **北東アジアから世界へつながる西日本のゲートウェイの構築** ～なかうみで出会う～

中海圏域は、高速道路（山陰道、米子自動車道）や鉄道（JR 山陰線、伯備線）、飛行機（米子空港発着の東京便、名古屋便）などにより、国内の他地域と山陰を結ぶ交通の結節点となっています。

また、中海圏域は、北東アジアに近接しており、境港とロシアのウラジオストク・韓国の東海や釜山・中国の上海や青島、大連を結ぶ国際航路、米子空港と韓国仁川空港を結ぶ国際航空路線によって北東アジアとつながっているという強みがあります。さらには、北東アジアにあるハブ港、ハブ空港あるいはシベリア鉄道を介して、広く世界とつながっています。

近年、中国をはじめとする北東アジア諸国は著しい経済成長を遂げており、日本とのヒト・モノ・カネの流動は拡大していることから、国内・海外へのネットワークがあるという圏域の強み（優位性）を活かし、国内他地域および北東アジアとの交流・連携を促進することが、中海圏域の発展につながります。

○ 中海をはじめとする豊かな自然と人が織りなす調和の実現 ～なかうみを守る～

中海圏域には、斐伊川流域の汽水域である中海・宍道湖をはじめ、日本海や河川、森林など豊かな自然があります。特に中海は、平成 17 年にラムサール条約に登録され、「国際的な資源」として位置づけられており、沿岸の 4 市 1 町や鳥取・島根両県、国をはじめとする関係機関、NPO、住民団体などが連携し、自然環境を保全しつつ、中海から得られる恵みを賢く利用（ワイズユース）する継続的な取り組みが展開されています。

中海圏域の生活環境を一層改善し、同時に圏域の持つ魅力を高め、国内外に強くアピールしていくためには、こうした取り組みを拡充させ、圏域の強みである豊かな自然を守り、後世に残していく必要があります。

○ 自然・人材・技術の連携による世界に誇る中海ブランドの創出 ～なかうみで創る～

中海圏域の 4 市 1 町には、特色ある産業集積や技術（米子の氷温技術※、境港の水産業、松江市のボタン※・Ruby※、安来市のヤスキハガネ、東出雲町の農機具製造など）、豊富な地域資源（中海をはじめとする豊かな自然や景観、温泉などの観光資源、圏域に残る歴史や文化など）、人材（圏域内の大学・研究施設など）など、圏域固有の強みがあります。

こうした強みを活かし、圏域を一体と捉えた産業振興を図ることで、停滞している地域経済を活発にする必要があります。

※氷温技術

…摂氏 0℃以下でも凍らずに食品が生き続ける温度域を「氷温」といい、この氷温域で食品の貯蔵や加工を行うことを「氷温技術」といいます。氷温技術には、高鮮度保持化・高品質化・有害微生物の減少化などの効果があります。

※ボタン

…松江市八束町では、ボタンの苗木の生産量が全国一の産地となっています。また、国内や海外にも輸出されています。

※Ruby

…松江市在住のまつもとゆきひろ氏によって作られたプログラミング言語の名称です。手軽さと高機能を併せ持つ言語で、世界中の多くのプログラマから支持されています。

(2) 圏域発展を支えるひとつの基盤

「三つの方向性」を踏まえて、圏域が一体的に発展していくためには、それを支える基盤を整備することが重要です。

圏域内での交通、物流、情報の一体化、圏域外への発信によるネットワークを構築するとともに、住民、事業者、団体等が交流し、圏域の構成員としての一体感や目的意識の共有化を進めていくための効果的なハード整備、ソフト面での多様な取り組みを進めることが必要となります。

「三つの方向性」を「エンジン」に例えれば、それを設置するための「プラットフォーム※」に例えられる県境や圏域構成市町の区域を越えた「ひとつの基盤」を整備します。

○ 4市1町がつながり、あたかもひとつのように機能するまち ～なかうみをつなげる～

中海圏域は県境があり、交通が不便である、情報交流が不十分であるなどが課題であると指摘されています。こうした圏域の弱みは、連携を促進する上で、大きな支障となっています。したがって、三つの方向性を実現するには、連携の基盤となる圏域内のネットワークを、ハード・ソフトの両面から強固にする必要があります。

ハード面では、江島大橋や山陰道などの社会基盤の整備がこれまでも行われてきましたが、圏域と他都市とを結ぶ高速道路や圏域内の道路網など、他地域よりも遅れているものもあります。そこで、中海圏域の将来に必要な社会基盤の充実が必要です。

また、中海圏域に住む人々の生活や経済活動は、市町の枠を越えて行われていますが、圏域には、まだまだ目に見えない「壁」のようなものも感じられるとの意見も多いことから、圏域内の人々の交流や情報交換・一体となって取り組めるイベントや行事などを通じて、ソフト面での連携の強化と相互補完に取り組み、圏域の一体感の醸成を図ることが必要です。

※プラットフォーム

…アプリケーションソフト等を動作させるための基盤となるOSなど。

転じて、上部に設置する様々なものを下から広く大きく支えるものをさす用語として定義される。

(3) 中海圏域の将来像

圏域を構成する4市1町には、それぞれ総合計画等があり、各市町ごとの施策を行い、地域の発展を図っています。こうした動きに加え、前章で示した中海圏域発展を強く牽引する方向性、圏域発展を幅広く支える基盤を踏まえ、中海圏域がめざすべき進路としての将来像を明らかにしていく必要があります。

その意味で、「ひとつの基盤」の上で展開する「三つの方向性」を相互に関連づけ、あたかも全体が一つのシステムとして稼働させていくことそれ自体が、圏域の将来像をかたちづくるものと考えます。

① 中海圏域がめざすべき進路（将来像にかえて）

まず、「西日本のゲートウェイの構築」を通じて中海圏域が発展著しい北東アジアをはじめ世界とつながることで、「中海ブランドの創出」も世界的な広がりの中で開発・技術革新や新産業の創出、流通、販売に結びつけていくことが可能となります。

また、その結果としてもたらされる競争力、知名度などブランド力のグレードアップがゲートウェイを一層魅力あるものとし、それを流れる人、物、情報の量と速度、質を増大、加速、向上させていきます。

一方、「豊かな自然と人が織りなす調和の実現」を図り、中海をはじめ貴重で魅力に富んだ自然環境を維持保全していくことが、国内はもとより世界的なこの圏域に対する認知度、イメージアップに結びつきます。

同時に、未来への遺産として、私たちの次の世代へと引き継いでいくことにより、この圏域が有するゲートウェイやブランドの将来に渡る存在価値を高めていくことにつながります。

そして、三つの方向性が相互に関連し、それぞれの機能や役割を補完し、増幅しあうことで、中海圏域発展のスパイラル（好循環）を生み出していく基盤として、道路・交通・情報網等のハード整備、事前環境保全の活動等に代表されるソフト面での取り組みによる「あたかもひとつのまちのように機能するまち」を創りあげていくことが求められています。

② 将来像のまとめ

上述の一連の取り組みにより示される中海圏域がめざすべき進路を「人、物、情報が世界に向けて行きかい、産業や暮らしに活気がみなぎり、かけがえのない自然を未来へ継承する中海圏域」としてまとめることができます。

さらに、本ビジョンでは、圏域振興・発展にむけた様々な取り組みを進めていくうえでのキャッチフレーズやスローガンとして、この圏域の将来像を「出会いは なかうみ 動きだす 未来」と表現することとしました。

出会いは なかうみ 動きだす 未来

中海圏域は、日本神話の時代より、圏域の豊かな自然を享受するとともに、圏域内だけでなく国内・対岸諸国との交流を通して新しい文化と技術を創造し、発展してきました。「出会いは なかうみ 動きだす 未来」という言葉には、これまで様々な「出会い」によって夢が実現してきたように、圏域が一体となって実現する新たな中海圏域の夢も、新しい「出会い」を通じて実現させたい、という思いをこめました。

現在の出会いもこれからの出会いも、全ては新しい未来へとつながっていきます。中海圏域に集う全ての人々の「出会い」が、新しい交流の促進、新しい産業の育成という未来を動かすステージを次々に生みだしていきます。

第5 定住自立圏共生ビジョンの期間

本ビジョンの期間は、5年間とし、毎年度所要の修正を図る。

第6 定住自立圏形成協定に基づき推進する分野及び施策

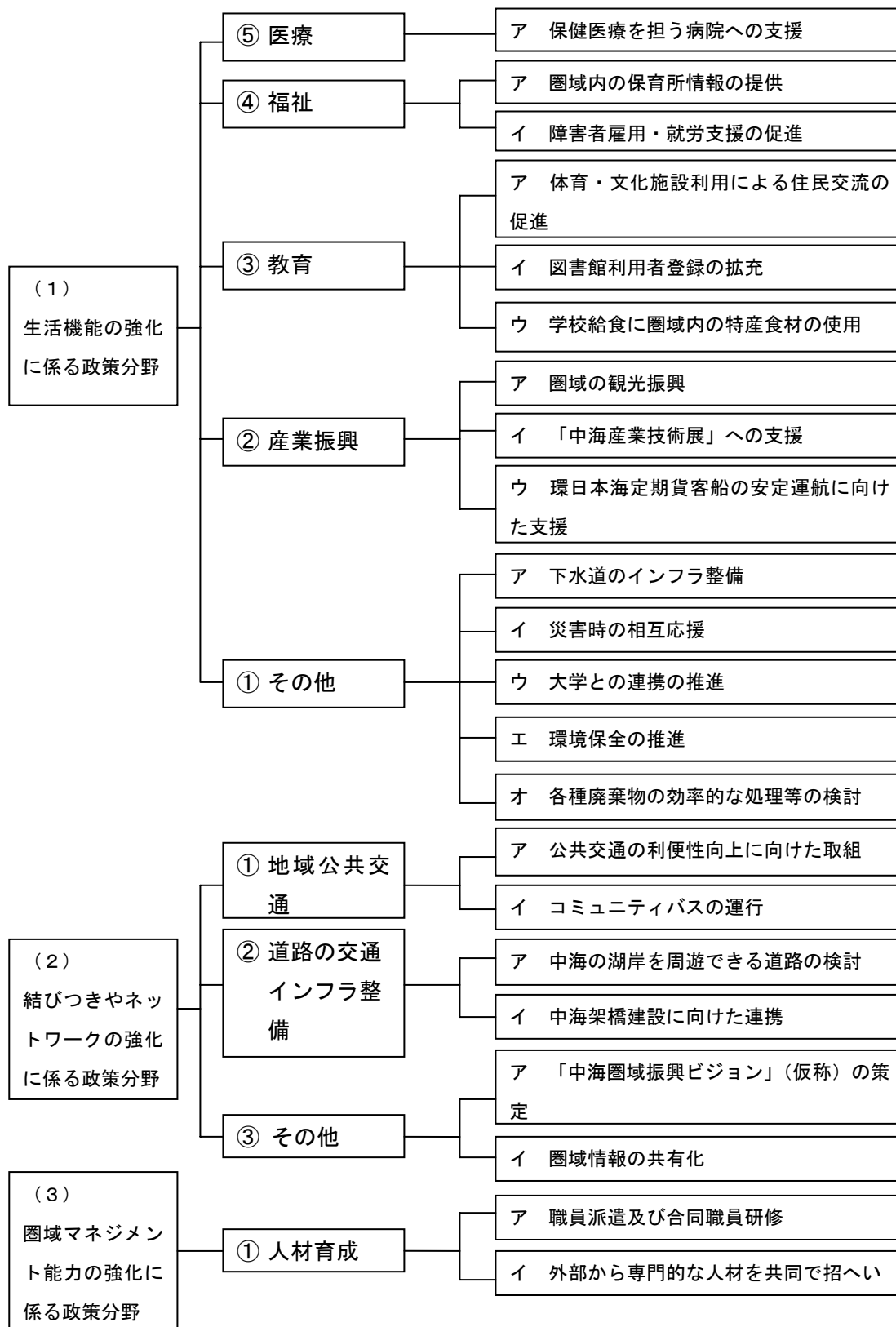
具体的取組は、生活機能の強化に係る政策分野（14施策）、結びつきやネットワークの強化に係る政策分野（6施策）及び圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野（2施策）の3分野の計22施策とする。

定住自立圏構想実現に向けた施策の体系図

3つの視点

政策分野

具体的な取組



(1) 生活機能の強化に係る政策分野

① 医療

ア 保健医療を担う病院への支援

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域住民に適切な医療サービスが切れ目なく提供されるよう、定住自立圏形成協定に記載した保健医療を担う病院等の診療機能強化等に必要な支援を行う。

【形成協定】

医療機関の役割分担・連携により、適切な医療サービスが切れ目なく提供されるよう、保健医療を担う病院の診療機能強化について、必要な支援を行う。

【具体的な事業】

事業名	・病院の診療機能強化支援事業					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年度には、松江市立病院・鳥取大学医学部附属病院・鳥取県済生会境港総合病院・安来市立病院が行う救急外来の受け入れ環境の整備等の診療機能の強化を図る事業費の一部を負担する。 ・医師・看護師確保を目的とした院内保育施設等の設備・充実させる事業経費の一部を負担する。 					
成果	・圏域の診療機能の向上					
事業費 (千円)	21 年度	22 年度見込	23 年度見込	24 年度見込	25 年度見込	計
	—————▶					

活用を想定する補助制度等	・地域活性化・経済危機対策臨時交付金（H21 年度）
関係市町の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会事業として実施する。 ・当該事業に係る費用は、松江市及び米子市が負担する。 ・境港市、安来市、東出雲町は、「鳥取県済生会境港総合病院」、「安来市立病院」の保健医療を担う病院の診療機能強化について、松江市及び米子市と連携を図り、必要な支援を行う。 ・松江市及び米子市は、松江市立病院・鳥取大学医学部附属病院の診療機能強化について、必要な支援を行う。

② 福祉

ア 圏域内の保育所情報の提供

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

保育所への入所希望者が増加していることから、各自治体ホームページの保育所情報を充実させるとともに、圏域自治体の情報とリンクする。

【形成協定】

保育所への入所希望者が増加していることから、各自治体ホームページの保育所情報を充実させるとともに、圏域自治体の情報とリンクして、保育所情報が容易に入手することができるようにする。

【具体的な事業】

事業名	・圏域保育所情報の提供拡充事業					
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の保育所情報が掲載されている「i-子育てネット（財団法人こども未来財団の運営サイト）」への情報提供を定期的実施するよう圏域内の保育所に働きかける。 ・各市町が公表している保育所情報の掲載ホームページには、利用者の利便性を図るため、容易に圏域内の保育所情報が取得できるよう相互にリンクボタンを設ける。 					
成 果	・圏域内の保育所情報が容易に入手					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————▶					

活用を想定する 補助制度等	
関係市町の役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・当該事業に係る費用は、松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町がそれぞれ負担する。 ・4市1町は、それぞれのホームページにリンクボタンをつける。 ・松江市・米子市は、圏域の保育所情報の提供を充実させるため、周辺市町との連絡調整を行う。 ・松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町は、それぞれの行政区域内にある保育事業者に情報提供を定期的実施するよう働きかける。 ・松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町は、保育所情報を掲載するホームページにリンクボタンを設ける。

イ 障がい者雇用・就労支援の促進

【関係市町】

安来市・東出雲町

松江市

【取組の概要】

障がい者の社会参画に向けた取組の一つとして、障がい者雇用・就労支援を行っている「松江圏域障がい者雇用支援ネットワーク」に参加し、障がい者の短期職場実習の機会づくりを支援し、雇用の定着につなげる。

【形成協定】

障がい者の社会参画に向けた取組の一つとして、障がい者雇用・就労支援を行っている「松江圏域障がい者雇用支援ネットワーク」に参加し、障がい者の短期職場実習の機会づくりを支援し、雇用の定着につなげる。

【具体的な事業】

事業名	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者インターンシップ事業 ・松江圏域障がい者雇用支援ネットワーク事業 					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の職場実習、雇用先の確保に向け、企業と障がい者の双方にとっての、「知るきっかけ」、「雇うきっかけ」、「働くきっかけ」づくりで意識高揚を図る。 ・職場実習（3・5・10日間）の実施企業へ奨励金を支給する。 					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の就労支援の充実 					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	→					

活用を想定する補助制度等	
関係市町の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・当該事業に係る費用（奨励金）は、松江市・安来市・東出雲町がそれぞれ負担する。 ・松江市は、「松江圏域障がい者雇用支援ネットワーク」に参加し、障がい者の短期職場実習の機会づくりについて、事業所数の多い地域特性を活かして支援する。 ・安来市及び東出雲町は、標記ネットワークに参加し、障がい者の短期職場実習の機会づくりを支援する。

③ 教育

ア 体育・文化施設利用による住民交流の促進

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域内の住民交流・連携の促進並びに圏域の一体感の醸成を目的として、市又は町立の体育・文化施設の市又は町外料金区分を撤廃し、今後も、同様の料金区分を設けないもとで、圏域住民のスポーツ交流及び文化交流を促進する取組を行う。

【形成協定】

体育・文化施設の市外料金区分を設けないことで、圏域住民のスポーツ交流及び文化交流を促進する。

【具体的な事業】

事業名	・圏域内の体育・文化施設利便性向上事業					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市又は町立の体育・文化施設について、市又は町外料金区分を撤廃する。 また、新たに施設を設置する場合においても、同様の料金区分を設けない。 ・圏域住民の文化・スポーツ等の交流を促進する事業等を実施する団体に対し、その事業費の一部を補助する。 					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域住民の体育・文化施設の利便性向上 ・体育イベント及び文化イベント等を通じた圏域住民の交流、連携の促進 					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————▶—————					

活用を想定する補助制度等	・定住自立圏構想推進基金（H22年度・H23年度）
関係市町の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・体育・文化施設の市又は町外区分撤廃についての費用は、松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町がそれぞれ負担する。 ・交流を促進する事業等の平成22年度の費用は、松江市及び米子市が負担する。 ・松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町は、市又は町立の体育・文化施設について、市又は町外区分を撤廃し、今後も設けない。 ・松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町は、圏域住民の文化・スポーツ等の交流を促進する事業等を実施する団体に対し、その事業費の一部を補助する中海市長会に必要な支援を行う。

イ 図書館利用者登録の拡充

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域住民に対し、図書館の利便性向上を図るため、圏域の住民であれば図書館の利用者登録ができ、自由に図書の貸出しが行えるように、取扱いを拡充する。

【形成協定】

圏域住民に対し、図書館の利便性向上を図るため、圏域の住民であれば図書館の利用者登録ができ、自由に図書の貸出しが行えるように、取扱いを拡充する。

【具体的な事業】

事業名	・圏域内の図書館利用者登録拡充事業					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の住民であれば図書館利用者登録ができ、自由に図書の貸出しが行えるように、取扱いを拡充する。 ・圏域内の図書館情報を入手しやすくするため、関係市町の図書館ホームページにリンクを張る。 					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の図書館利用促進 ・圏域住民の図書館利用の利便性向上 					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————→					

活用を想定する 補助制度等	
関係市町の役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・当該事業に係る費用は、松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町がそれぞれ負担する。 ・松江市・米子市は、圏域内の図書館利用者登録の取扱いを拡充させるため、周辺市町との連絡調整を行う。 ・米子市、境港市、東出雲町は、圏域内の住民であれば図書館利用者登録ができ、自由に図書の貸出しが行えるように、取扱いを拡充する。 ・松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町は、図書館及びホームページを運営し、関係市町の図書館ホームページにリンクを張る。

ウ 学校給食に圏域内の特産食材の使用

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

食育を通じて圏域への愛着を持ってもらうことを目的に、学校給食に圏域内の特産食材を取り入れる事業を連携して行う。

【形成協定】

学校給食に圏域内の特産食材を取り入れる等、食育を通じて次代を担う子どもたちに、圏域への愛着を持ってもらう取組を検討し、実施する。

【具体的な事業】

事業名	学校給食へ特産食材使用事業					
内 容	・「しじみ」・「白ネギ」・「カニ」・「タケノコ」・「野焼き」等、圏域内の特産食材を学校給食に取り入れ、特産食材の由来や地域の食文化等の情報を提供する。					
成 果	・子ども達に圏域の特産食材に興味を持ってもらうを通じ、圏域に対する愛着や誇り等の感情を育成					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————→					

活用を想定する 補助制度等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化・経済危機対策臨時交付金（H21年度） ・定住自立圏構想推進基金（H22年度・H23年度）
関係市町の役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・当該事業に係る費用は、松江市及び米子市が負担する。 ・松江市及び米子市は、学校給食に圏域内の農産物、水産物、又はその加工品等を取り入れ、子どもたちにその食材や地域の食文化等の知識を伝えることで、圏域に愛着が持てる取組を検討し、実施する。 ・境港市、安来市、東出雲町は、松江市及び米子市と連携して、学校給食に圏域内の農産物、水産物、又はその加工品等を取り入れ、子どもたちにその食材や地域の食文化等の知識を伝えることで、圏域に愛着が持てる取組を検討し、実施する。

④ 産業振興

ア 圏域の観光振興

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域の観光振興を目的に、自然や歴史、伝統・文化等圏域が持っている様々な魅力を内外に発信する。また、国際文化観光都市及び空と海の国際航路を有する圏域の特性を活かし、国内外から訪れる観光客が圏域内を円滑に周遊できる方策を連携して実施する。

【形成協定】

- a 圏域の観光振興を目的に、共通ポスターの作製や、圏域から首都圏へ出店している店舗を通じての情報発信を始め、プロモーションビデオを作製する等、圏域の魅力を内外に発信する事業を連携して行い、又は支援する。
- b 国際文化観光都市及び空と海の国際航路を有する圏域の特性にかんがみ、国内外から訪れる観光客が、圏域内を円滑に周遊できる方策を連携して行い、又は支援する。

【具体的な事業】

事業名	圏域情報発信及び観光振興事業
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・環日本海貨客船や米子ーソウル便でロシア・韓国・中国等から圏域に訪れる外国人への情報提供を行うため、共通の外国語対応のパンフレットを作製する。 ・外国語対応のパンフレット及び各市町の観光パンフレットを置くため、パンフレットスタンドを配置する。 ・境港に入国する外国人観光客に歓迎の意を表す看板を整備する。 ・観光案内所、公設の観光施設等に外国語の会話に対応した翻訳機を配置し、外国人観光客の利便性の向上を図る。 ・中海圏域の風景や祭りなどの画像を数秒ごとに切り替え表示するフォトフレームを設置し、圏域の観光施設やイベント等の情報提供を行う。 ・ノベルティグッズ「ウンパくん」・「ゲゲの女房」を作成する。 ・圏域内に不足するといわれている観光客の2次交通について、コースを企画し、当地を訪れる観光客の需要、目的地等について、調査及び観光バスの実証実験を行う。 ・旅行会社とのタイアップによる圏域の観光商品を開発する。 ・その他関連事業を実施する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域の知名度の向上 ・観光資源を活かした観光振興 ・圏域住民の一体感の醸成及び観光客の増加 ・観光客が圏域内を周遊する際の利便性向上

事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————▶					

活用を想定する 補助制度等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化・経済危機対策臨時交付金（H21年度） ・定住自立圏構想推進基金（H22年度・H23年度）
関係市町の役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・当該事業に係る費用は、松江市及び米子市が負担する。 ・松江市・米子市は、観光振興事業を実施するため、周辺市町との連絡調整を行う。 ・境港市・安来市・東出雲町は、それぞれの役割分担に応じ、事業を実施する。

イ 「中海産業技術展」への支援

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域内の企業が有する優れた技術、製品、商品等の情報を圏域内外の企業に紹介し、商談する場として開催される「中海圏域産業技術展」について、必要な支援を行い圏域の産業振興を図る。

【形成協定】

日本海側における有数の産業集積地である優位性を活かし、圏域内の製造業を中心とした企業が有する優れた技術、製品、商品等の情報を圏域外の企業に紹介し、商談する場として開催される「中海圏域産業技術展」について、連携して支援する。

【具体的な事業】

事業名	<ul style="list-style-type: none"> ・中海圏域産業技術展補助金 ・中海圏域連携事業負担金 ・中海圏域連携産業振興事業（中海圏域産業技術展実行委員会負担金） ・産業技術展負担金 ・中海圏域の PR 看板作成事業 					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域の企業や商工団体等で構成される当該技術展の実行委員として運営に参加するとともに、同技術展の実行委員会と連携し、必要な支援を行う。 					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の産業振興 ・圏域企業の販路拡大 					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————→					

活用を想定する補助制度等	<ul style="list-style-type: none"> ・定住自立圏構想推進基金（H22年度）松江市 64 千円・米子市 36 千円
関係市町の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度から中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・平成 21 年度の当該事業に係る費用は、松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町がそれぞれ負担する。 ・松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町は、当該技術展実行委員会に委員として参加する。 ・松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町は、「水産加工品」や「特殊鋼」、「機械器具製造」等の各区域の地域産業関係者と連携して当該技術展の運営に取り組む。

ウ 環日本海定期貨客船の安定運航に向けた支援

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

北東アジアに対する西日本の玄関口として、人的・物的交流を促進し、競争力を高めるため、重要港湾である境港と、韓国（東海）、ロシア（ウラジオストク）を結ぶ環日本海定期貨客船の安定運航に向け、連携して支援する。

【形成協定】

北東アジアに対する西日本の玄関口として、人的・物的交流を促進し、競争力を高めるため、重要港湾である境港と、韓国（東海）、ロシア（ウラジオストク）を結ぶ環日本海定期貨客船の安定運航に向け、連携して支援する。

【具体的な事業】

事業名	<ul style="list-style-type: none"> ・環日本海定期貨客船支援事業 ・環日本海定期貨客船運航支援 					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・環日本海定期貨客船の安定運航に向け、初期経費を助成する民間団体へ支援する。 ・圏域内の商工団体等と連携し、当該定期貨客船の利用促進に向けた周知を図る。 					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人旅行客の増加 ・圏域産業の活性化 					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————▶—————					

活用を想定する補助制度等	
関係市町の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・平成21年度の当該事業に係る費用は、松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町がそれぞれ負担する。 ・平成22年度・平成23年度の当該事業に係る費用の各市町の負担割合は、未定である。 ・境港市は、定期化客船の寄港地であることを踏まえ、関係団体と連携し、安定運航に向け必要な支援を行う。

⑤ その他

ア 下水道のインフラ整備（１）

【関係市町】

境港市

米子市

【取組の概要】

圏域内の下水道整備推進を図るため、必要に応じ協議した上で、隣接する自治体の下水道に接続し、汚水処理を行う。

【形成協定】

圏域内の下水道整備推進を図るため、必要に応じ協議した上で、隣接する自治体の下水道に接続し、汚水処理を行う。

【具体的な事業】

事業名	<ul style="list-style-type: none"> ・旭が丘団地枝線工事 ・旭が丘団地枝線その２工事 ・旭が丘団地枝線その３工事 					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・境港市と米子市の公共下水道の汚水処理事務の委託に関する規約を締結し、事業を実施する。 					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道整備の早期実施 					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————→					

活用を想定する補助制度等	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道・官渠等築造事業 1/2
関係市町の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・当該事業に係る費用は、米子市が負担する。 ・米子市は、「境港市下水道センター」に接続するための管渠整備を行う。 ・境港市は、隣接する米子市大篠津町の一部区域から発生する汚水を受け入れ、処理する。

ア 下水道のインフラ整備（２）

【関係市町】

安来市

米子市

【取組の概要】

圏域内の下水道整備推進を図るため、必要に応じ協議した上で、隣接する自治体の下水道に接続し、汚水処理を行う。

【形成協定】

圏域内の下水道整備推進を図るため、必要に応じ協議した上で、隣接する自治体の下水道に接続し、汚水処理を行う。

【具体的な事業】

事業名	公共下水道建設費					
内 容	・米子市と安来市の公共下水道の汚水処理事務の委託に関する規約を締結し、事業を実施する。					
成 果	・下水道整備の早期実施					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————▶					

活用を想定する 補助制度等	・下水道国庫補助金 1/2
関係市町の役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> ・当該事業に係る費用は、安来市が負担する。 ・安来市は、米子市の公共下水道に接続するための管渠整備を行う。 ・米子市は、安来市の一部区域から発生する汚水を受け入れ、処理する。

イ 災害時の相互応援

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域住民の安心・安全な生活を確保するため、圏域内の自治体で「中海圏域 4 市 1 町災害時相互応援協定書」に基づき、大規模災害時における相互応援体制を整備する。

【形成協定】

- a 圏域の大規模災害時の応援体制を確保するため、「中海圏域 4 市 1 町災害時相互応援協定書」（以下「相互応援協定書」という。）に基づき、防災連絡協議会を設置する。
- b 相互応援協定書で締結している食料等の供給、資機材の提供、職員の派遣等の応援について、震災等の大規模災害を想定した実務的な図上訓練を定期的実施する。

【具体的な事業】

事業名	・災害時相互応援体制整備事業					
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の 4 市 1 町で防災連絡協議会を設置・運営し、大規模災害時の相互応援体制についての強化を図る。 ・圏域内の 4 市 1 町で連携して、震災等の大規模災害を想定した実務的な図上訓練を定期的実施する。 ・災害時に相互で支援する物資や資機材を確認するとともに、必要な資機材を共同で購入し、備蓄する。 					
成 果	・災害時における圏域住民の安心・安全の確保					
事業費 (千円)	21 年度	22 年度見込	23 年度見込	24 年度見込	25 年度見込	計
					➔	

活用を想定する 補助制度等	・定住自立圏推進基金（H22 年度）
関係市町の役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・共同で資機材を購入する費用は、松江市及び米子市が負担する。 ・その他の費用は、松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町がそれぞれ負担する。 ・松江市及び米子市は、災害時の応援要請手続きに必要な書面の整備を行うとともに、圏域内での大規模災害を想定した図上訓練を定期的開催する。 ・境港市・安来市・東出雲町は、災害時円滑な対応ができるよう適時情報を提供するとともに、松江市及び米子市が行う図上訓練に積極的に参加する。

ウ 大学等との連携の推進

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域内の高等教育機関等との連携を推進する。

圏域内への定住につながる専門学校への進学を促進するため、高等学校を対象とした進学説明会を開催するとともに、専任のコーディネーターを配置する。

【形成協定】

圏域内の高等教育機関である「島根大学」、「鳥取大学医学部」等との連携を推進する。

圏域内への定住につながる専門学校への進学を促進するため、高等学校を対象とした進学説明会を開催するとともに、専任のコーディネーターを配置する。

【具体的な事業】

事業名	大学等との連携推進業					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の高等教育機関である「島根大学」、「鳥取大学医学部」等との連携を推進する。 ・圏域内への定住につながる専門学校への進学を促進するため、高等学校を対象とした進学説明会を開催するとともに、専任のコーディネーターを配置する。 					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の高等教育機関と行政、諸団体の連携の強化 ・圏域内への定住につながる専門学校への進学促進 					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————→					

活用を想定する 補助制度等	
関係市町の役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> ・当該事業に係る費用は、松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町がそれぞれ負担する。 ・松江市が、「島根大学」、「鳥取大学医学部」等と連携している「サタデースクール」への学生派遣、「松江市立病院」への医師派遣等の事業を推進する。 ・松江市は、高等学校を対象とした進学説明会を開催するとともに、専任のコーディネーターを配置する ・米子市は、鳥取大学医学部と連携して、認知症予防教室、鳥取バイオフロンティア等の事業を推進する。 ・安来市は、島根大学と連携して、たたら研究事業を推進する。鳥取大学医学部付属病院の臨床研修協力病院として、地域医療の連携を推進する。

<p>・安来市は、高等学校を対象とした、専門学校への進学説明会の開催について、必要な支援を行う。</p> <p>境港市は、鳥取大学と連携して、グリーンツーリズムのフィールドワーク、自動綿操り機の開発を推進する。</p> <p>・東出雲町は、島根大学と連携して、汚泥の堆肥化の研究を推進する。</p>

エ 環境保全の推進

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

中海圏域の恵まれた自然環境の保全事業を、圏域が一体となって推進していくことを目的に、圏域内の自治体がどのように連携、役割分担を図るのか検討する。

また、ラムサール条約の登録湿地である中海の「環境保全」や「賢明な利用（ワイズユース）」へつながる取組を行う。

【形成協定】

- a 日本海や中国山地に連なる山なみ等、恵まれた自然環境の保全事業を圏域が一体となって推進していくことを目的に、圏域内の自治体がどのように連携、役割分担を図るべきか検討し、可能な事業を実施するための環境保全対策ワーキンググループを、新たに設置する。
- b ラムサール条約の登録湿地である中海の水質保全を始めとする「環境保全」や「賢明な利用（ワイズユース）」の取組の一つとして、関係機関等と連携し中海沿岸の一斉清掃等に取り組む。

【具体的な事業】

事業名	圏域の環境保全推進事業					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全事業を圏域が一体となって進めるために、圏域内の自治体がどのように連携、役割分担を図るべきかについて、ワーキンググループで検討を進める。 ・圏域内の自治体は、関係機関と協力し、中海沿岸の一斉清掃等、住民参加型の取組を拡充する。 					
成果	・圏域で一体的な環境保全の取組を行うことによって、保全事業の効率化、促進					
事業費費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————→					

活用を想定する 補助制度等	
------------------	--

関係市町の役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・ 当該事業に係る費用は、松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町がそれぞれ負担する。 ・ 松江市及び米子市は、圏域内の自治体がどのように連携、役割分担を図るかを検討するため、ワーキンググループを開催する。 ・ 松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町は、関係機関等と連携し中海沿岸の一斉清掃に取り組む。
---------------	---

オ 各種廃棄物の効率的な処理等の検討

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

各種廃棄物の効率的な処理や一層の資源化、有効利用の方策等について、圏域自治体が連携して検討する。

【形成協定】

圏域内の自治体において処理すべき各種廃棄物の効率的な処理や一層の資源化、有効利用の方策等について、連携して検討する。

【具体的な事業】

事業名	各種廃棄物の効率的な処理の検討					
内 容	・各自治体で行っている各種廃棄物の効率的な処理や一層の資源化、有効利用の方策等について、実務レベルでのワーキンググループを設置し、検討する。					
成 果	・連携による各種廃棄物の効率的な処理					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————▶					

活用を想定する 補助制度等	
関係市町の役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> ・当該事業に係る費用は、松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町がそれぞれ負担する。 ・松江市及び米子市は、各種廃棄物の処理等について検討するワーキンググループを開催する。

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

① 地域公共交通

ア 公共交通の利便性向上に向けた取組

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域内の各市町間の地域公共交通の利便性向上へ向け、ネットワークの機能の向上を目的に、公共交通の現況を調査して、圏域の公共交通マップを作成するとともに、各市町間の公共交通の課題を抽出し、改善策を研究する。

【形成協定】

行政区域や県境を越えた公共交通ネットワークの充実等、利便性向上を図るため、現況調査及び有効なルート設定等を研究する。

【具体的な事業】

事業名	公共交通の利便性向上事業					
内容	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の公共交通現況調査を実施し、公共交通マップを作成するとともに、各市町間の公共交通の課題を抽出し、改善策を作成する。 現況調査結果を受け、必要に応じバスの試験運行等を実施し、路線の必要性を検証する。 					
成果	・試験運行等の結果を受けて、必要に応じバスの本格運行等の実施					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————▶—————					

活用を想定する補助制度等	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化・経済危機対策臨時交付金（H21年度） 定住自立圏構想推進基金（H22年度）
関係市町の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> 中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 当該事業に係る費用は、松江市及び米子市が負担する。 松江市及び米子市は、圏域内の公共交通現況調査を実施し、公共交通マップを作成する。 松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町は、各市町間の公共交通の課題を抽出し、改善策を研究する。現況調査結果を受け、必要に応じバスの試験運行等を実施し、路線の必要性を検証する。

イ コミュニティバスの運行

【関係市町】

境港市

松江市

【取組の概要】

圏域住民の交通手段を確保し、通勤や通学、通院等の利便性向上を図るため、県境をまたいだコミュニティバスの運行を連携して実施する。

【形成協定】

通勤や通学、通院等の利便性向上を図るため、県境をまたいだコミュニティバスの運行を連携して実施する。

【具体的な事業】

事業名	<ul style="list-style-type: none"> ・(美保関) コミュニティバス運行事業費 ・境水道渡船代替バス運行支援事業 					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・松江市美保関町から境港市の JR 境港駅、済生会境港総合病院を結ぶコミュニティバスを運行する。 					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・松江市と境港市における公共交通の利便性の確保 					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————▶					

活用を想定する補助制度等	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県生活バス路線確保対策交付金
関係市町の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・当該事業に係る費用は、松江市及び境港市が負担する。

【関係市町】

境港市

松江市

【取組の概要】

圏域住民の交通手段を確保し、通勤や通学、通院等の利便性向上を図るため、県境をまたいだコミュニティバスの運行を連携して実施する。

【具体的な事業】

事業名	(八束) コミュニティバス運行事業費					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・松江市八束町から境港市の JR 境港駅、済生会境港総合病院を結ぶコミュニティバスを運行する。 					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・松江市と境港市における公共交通の利便性の確保 					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————▶					

活用を想定する補助制度等	・島根県生活バス路線確保対策交付金
関係市町の役割分担	・当該事業に係る費用は、松江市が負担する。

【関係市町】

安来市
米子市

【取組の概要】

圏域住民の交通手段を確保し、通勤や通学、通院等の利便性向上を図るため、県境をまたいだコミュニティバスの運行を連携して実施する。

【具体的な事業】

事業名	広域生活バス運行事業					
内容	・安来市の広瀬、伯太（富吉）から米子市のJR米子駅を結ぶコミュニティバスを運行する。					
成果	・安来市と米子市における公共交通の利便性の確保					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————→					

活用を想定する補助制度等	
関係市町の役割分担	・当該事業に係る費用は、安来市が負担する。

【関係市町】

東出雲町
松江市

【取組の概要】

圏域住民の交通手段を確保し、通勤や通学、通院等の利便性向上を図るため、行政区域をまたいだコミュニティバスの運行を連携して実施する。

【形成協定】
通勤や通学、通院等の利便性向上を図るため、行政区域をまたいだコミュニティバスの運行を連携して実施する。

【具体的な事業】

事業名	東出雲町コミュニティバス八雲線					
内 容	・東出雲町の JR 揖屋駅から松江市八雲町の八雲ゆうあい館を結ぶコミュニティバスを運行する。					
成 果	・東出雲町と松江市における公共交通の利便性の確保					
事業費 (千円)	21 年度	22 年度見込	23 年度見込	24 年度見込	25 年度見込	計
	—————▶					

活用を想定する 補助制度等	
関係市町の役割 分担	・当該事業に係る費用は、東出雲町が負担する。

② 道路の交通インフラ整備

ア 中海の湖岸を周遊できる道路の検討

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域住民の交通利便性を高めるとともに、中海の風光明媚な景色も楽しめるスポット等も盛り込んで、ルート設定を行い、圏域内移動の利便性向上と、地域内外の交流を促進する。

【形成協定】

圏域住民の交通利便性を高めるとともに、地域内外の交流を促進するため、中海の湖岸を周遊できる道路のネットワーク構築に向けた取組を進める。

【具体的な事業】

事業名	中海の湖岸を周遊できる道路の検討事業					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーキンググループを設置し、中海の湖岸を周遊できる道路のネットワーク構築に向けた取組を進める。 ・圏域内が一体となった管内図及び都市計画図の作製。 ・具体的な周遊道路のルート及び整備計画の検討。 ・当該ルート部分の事業化を検討、周遊道路のPR。 					
成果	・圏域内移動の利便性の向上					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————▶—————					

活用を想定する補助制度等	・地域活性化・経済危機対策臨時交付金（H21年度）
関係市町の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・管内図及び都市計画図を作製する費用は、松江市及び米子市が負担する。 ・松江市及び米子市は、管内図及び都市計画図を作製するため、周辺市町と連絡調整を行う。 ・松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町は、圏域の周遊道路のネットワーク構築にむけた提案を行う。

イ 中海架橋建設に向けた連携

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域住民の交通利便性を高めるとともに、地域内外の交流を促進するため、圏域が一体となって「中海架橋建設連絡協議会」の早期再開等、中海架橋建設に向けた機運の醸成を図る。

【形成協定】

圏域住民の交通利便性を高めるとともに、地域内外の交流を促進するため、圏域が一体となって「中海架橋建設連絡協議会」の早期再開等、中海架橋建設に向けた機運の醸成を図る。

【具体的な事業】

事業名	中海架橋建設に向けた連携事業					
内容	・「中海架橋建設米子市・安来市連絡会」を設置し、「中海架橋建設連絡協議会」再開の必要性を整理し、早期再開について要望を行う。					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域住民の交通利便性の向上 ・地域内外の交流促進 ・圏域内の渋滞緩和 					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
					➔	

活用を想定する 補助制度等	
関係市町の役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会の要望事項として実施する。 ・米子市及び安来市は、「中海架橋建設連絡協議会」再開の必要性を整理し、松江市・境港市・東出雲町と連携して、要望を行う。

③ その他

ア 「中海圏域振興ビジョン」(仮称)の策定

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

中海圏域が日本海側のそして、山陰の中核的な都市圏として一体的に発展していくためには、圏域の構成自治体をはじめ、諸団体が共有すべき圏域の将来像を定め、それらが一体となって取り組むべき方向性を示すため、「中海圏域振興ビジョン」(仮称)を策定する。

【形成協定】

環日本海の窓口として、日本海沿岸地域における有数の人口集積と充実した都市基盤等、高いポテンシャルを持つ圏域の将来像を明確にし、県境を越えたこの地域が一層の連携強化を図るため、「中海圏域振興ビジョン」(仮称)を策定し、圏域で活動する様々な団体と圏域が向かうべき方向性を共有する。

【具体的な事業】

事業名	「中海圏域振興ビジョン」(仮称)策定事業					
内容	・圏域の現状と課題を整理し、圏域の将来像や取り組むべき方向性を盛り込んだ「中海圏域振興ビジョン」(仮称)を策定する。					
成果	・圏域内で活動する諸団体の連携強化 ・住民の一体感の醸成					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	→					

活用を想定する補助制度等	・定住自立圏構想推進基金(H21年度)
関係市町の役割分担	・中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・当該事業に係る費用は、松江市及び米子市が負担する。 ・松江市・米子市は、ビジョン策定業務に職員を従事させる。

イ 圏域情報の共有化

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域内にあるケーブルテレビ事業者が放映している地域情報を相互提供できるよう調整を図る。

また、ケーブルテレビの未整備地域については、施設の整備を行うとともに、圏域内にあるケーブルテレビ事業者が放映している地域情報を相互提供できるよう調整を図る。

【形成協定】

圏域情報の共有化を図るため、圏域内の各ケーブルテレビ事業者が放映している圏域情報の相互提供を推進する。

【具体的な事業】

事業名	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会同時中継経費 ・テレビ広報経費 ・防災対策関連機器維持管理費 ・ブロードバンド・インフラ整備事業 					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内にあるケーブルテレビ事業者「山陰ケーブルビジョン」と「中海テレビ放送」の番組を相互に放送する等の調整を図る。 ・安来市と東出雲町は、ケーブルテレビ等のインフラ整備を行う。 					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・住民は、隣接自治体の生活情報の取得 ・住民の一体感の醸成 					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————▶—————					

活用を想定する補助制度等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域情報通信基盤整備推進交付金（安来市・東出雲町） ・地域活性化・公共投資臨時交付金（安来市・東出雲町）
関係市町の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・番組の制作及び放映に係る費用は、松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町がそれぞれ負担する。 ・施設の建設に係る費用は、安来市及び東出雲町が負担する。 ・圏域情報共有化の手法、時期、形態、体制等を検討する。 ・安来市、東出雲町はケーブルテレビのインフラを整備する。

(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

① 人材育成

ア 職員派遣及び合同職員研修

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域住民への行政サービス向上のためには、自治体職員の育成を図る必要がある。そこで、圏域内の自治体に相互に職員派遣を行うとともに、合同職員研修を実施することで、自治体職員の資質と能力の向上を図る。

【形成協定】

- a 特徴ある施策を実施している圏域内の各自治体間において、職員の資質向上と連携強化を図るため、職員を派遣する。
- b 特徴ある施策を実施している圏域内の各自治体間において、職員の資質向上と連携強化を図るため、合同職員研修を実施する。

【具体的な事業】

事業名	職員派遣及び合同職員研修事業					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・職員派遣計画を策定するとともに、当該計画に基づき職員を派遣する。 ・環境、地域振興等の研修共通のテーマについて、合同職員研修を実施する。 					
成果	・自治体職員の資質と能力の向上					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
	—————▶					

活用を想定する補助制度等	・定住自立圏構想推進基金（H22年度・H23年度）
関係市町の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・職員の派遣に係る費用は、松江市・米子市・境港市・安来市・東出雲町がそれぞれ負担する。 ・合同研修の開催費用は、松江市及び米子市が負担する。

イ 外部から専門的な人材を共同で招へい

【関係市町】

境港市・安来市・東出雲町

松江市・米子市

【取組の概要】

圏域内の生活機能の強化及び結びつきやネットワークの強化を推進し、併せて圏域のマネジメント能力を向上させるために、必要に応じて専門的な経験や実績のある人材を共同で招へいする。

【形成協定】

圏域のマネジメント能力を向上させるため、圏域外から専門的な経験や実績のある人材を共同で招へいする。

【具体的な事業】

事業名	外部からの人材招へい事業					
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・定住自立圏の取組に関する継続的なアドバイザーや、定住自立圏形成協定の項目内容に沿った専門分野の講師を招へいする。 ・ロシア貿易の専門アドバイザーを招へいする。 					
成 果	・圏域のマネジメント能力の向上					
事業費 (千円)	21年度	22年度見込	23年度見込	24年度見込	25年度見込	計
		→				

活用を想定する 補助制度等	・定住自立圏構想推進基金（H22年度・H23年度）
関係市町の役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> ・中海市長会の定住自立圏推進事業として実施する。 ・招へいに係る費用は、松江市及び米子市が負担する。 ・松江市及び米子市は、圏域のマネジメント能力を向上させるため、専門的な経験や実績のある人材を招へいする。 ・境港市は、ロシアビジネスサポートできる専門的な人材を配置する。